

World Sailing 競技規則 Q&A サービス

B 001 Q&A 2017.001

2017 年7 月10 日公表

2017 年9 月15 日取り消し

このQ & Aはさらなる検討のため、World Sailing により取り消された。

World Sailing 競技規則 Q&A サービス

B 002 Q&A 2017.002

2017 年7 月21 日公表

2017 年9 月15 日取り消し

このQ & Aはさらなる検討のため、World Sailing により取り消された。

World Sailing 競技規則 Q&A サービス

J 001 Q&A 2017.003

2017年10月2日公表

状況

レガッタは5日間にわたって8レースが予定されていた。第2レース中に、ポートタックの艇Aとスターボードタックの艇Bの間で接触があった。インシデントの結果、Aは2回転ペナルティーを履行し、Bはそのレースをリタイアした。水上で、Bは冒瀆的で好ましくない言葉を叫んだ。Aは陸上に戻った時にリタイア報告書にサインした。

表彰式の後に、Aはプロテスト委員会事務局に規則69に関する報告書を提出した。

質問1

プロテスト委員会事務局は、その報告が抗議締切時刻の後に大会が終わった後に提出されたことを理由として受け取ることを拒否できるか？

回答1

できない。規則69の違反の可能性について通知することに締切時刻は無い。さらに、プロテスト委員会だけがその妥当性について決定できる。抗議、要求、報告は必ずプロテスト委員会に送付されなければならない。

質問2

規則69に基づく報告を作成する期限はいつか？

回答2

規則には規則69に基づく報告を作成する期限は定められていない。ただし、プロテスト委員会は審問を行うか決めるときに報告の適時性と遅れた理由について考慮しなければならない。

World Sailing 競技規則 Q&A サービス

N 001 Q&A2017.004

2017年10月5日公表

状況

多くの各国連盟は、セーリング競技規則など、翻訳版の文書を公表している。翻訳する際、彼らは正確で正しい翻訳をするよう努力している。ただし、翻訳ミスが起こることがあり、その誤りは、オリジナルの文書の意味を変更してしまうことがある。

質問1

レース公示および/または帆走指示書に、「規則」に基づいた公式規則文書の翻訳版が記載されている場合、翻訳版とオリジナル版との間の潜在的な矛盾については何も言及しておらず、矛盾がある場合は、翻訳版またはオリジナル版のどちらが優先されるか？

回答 1

セーリング競技規則（RRS）はWorld Sailingによって英語で公表されており、特定の競技規則の翻訳が規則85および86に規定されている競技規則の変更の要件を満たしていない場合、いかなる翻訳よりも常に優先する。翻訳の時に起こる違いは、規則を明確に定めたものではなく、変更を明記するものではないため、有効な競技規則の変更ではない。レース公示または帆走指示書の代わりにRRSの翻訳が適用されるという記述は、規則J1.1（2）およびJ2.1（1）に準拠していない。

同様に、World Sailing規程は英語で公表されており、意図的かどうかにかかわらず、変更できない。セーラー分類規程は、World Sailingによってフランス語、イタリア語、スペイン語、およびドイツ語で追加公表されているが、公開されている翻訳では、言語間に矛盾がある場合、英語版が優先されることが明確に記載されている。

一部の競技規則は、規則85および86に規定しているように、各国連盟の規程、レース公示、帆走指示書またはクラス規則によって変更できる。意図的であろうとなかろうと、英語版のセーリング競技規則と異なる意味をもつ競技規則の翻訳は、規則85と86の制限と手続きを遵守している場合に限り優先される。

レース公示や帆走指示書が異なる言語で公布されている場合、どのバージョンが優先されるかを述べなくても、規則63.7を適用する。

規則85,86、および88.2は、意図的であろうとなかろうと、翻訳における変更を含み、各国連盟の規程の変更に適用される。

クラス規則は公表された言語が優先する。クラス規則を変更する効力を持つ翻訳は、変更が有効に適用されるため、規則85および87に従う必要がある。

同様の原則が、大会を管理するその他の文書の翻訳による相違にも適用される。"

質問2

質問1に対する回答が、翻訳版が優先され、国際大会で特定の文書（異なる各国連盟によって翻訳されたもの）の翻訳が複数ある場合、どのバージョンが優先されるのか？

回答2

適用できない。

World Sailing 競技規則 Q&A サービス

J 002 Q&A 2017.005

2017年10月5日公表

状況

状況と事実は、艇Bが規則2に違反していることを除いてWS ケース140質問1と同じ：

レースが規則 30.3、U 旗規則、または規則 30.4、黒色旗規則に基づいてスタートされた。スタート信号の 20 秒前に艇Aと艇Bの間でインシデントが起こった。レース委員会はAの一部がコース・サイドにあることを特定した。A はスタート・ラインのプレスタート・サイドに戻らず、コースの帆走を続け、フィニッシュした。レース委員会はAをUFDまたはBFDと適切に記録した。

AはBに対する有効な抗議を申し立てた。プロテスト委員会は2章の規則違反でBを失格とした。プロテスト委員会はBの規則違反の結果、Aは規則30.3または30.4違反を強いられたと認定した。また、傷害も物理的損傷も無く、Bは規則2「公正な帆走」に違反していると認定した。

質問

Aは規則62.1(d)に基づいて救済を受ける資格があったか？

回答

Aがスタート・ラインのプレスタート・サイドに戻らず、正しくスタートせず、コースを帆走してフィニッシュしない場合、規則28.1に従うことを妨げるものはなく、したがって規則62.1の「その艇の過失ではなく」という条件を満たさないため、救済を受ける資格が無い。ケース140の回答1のように、Aの得点はDNSになる。

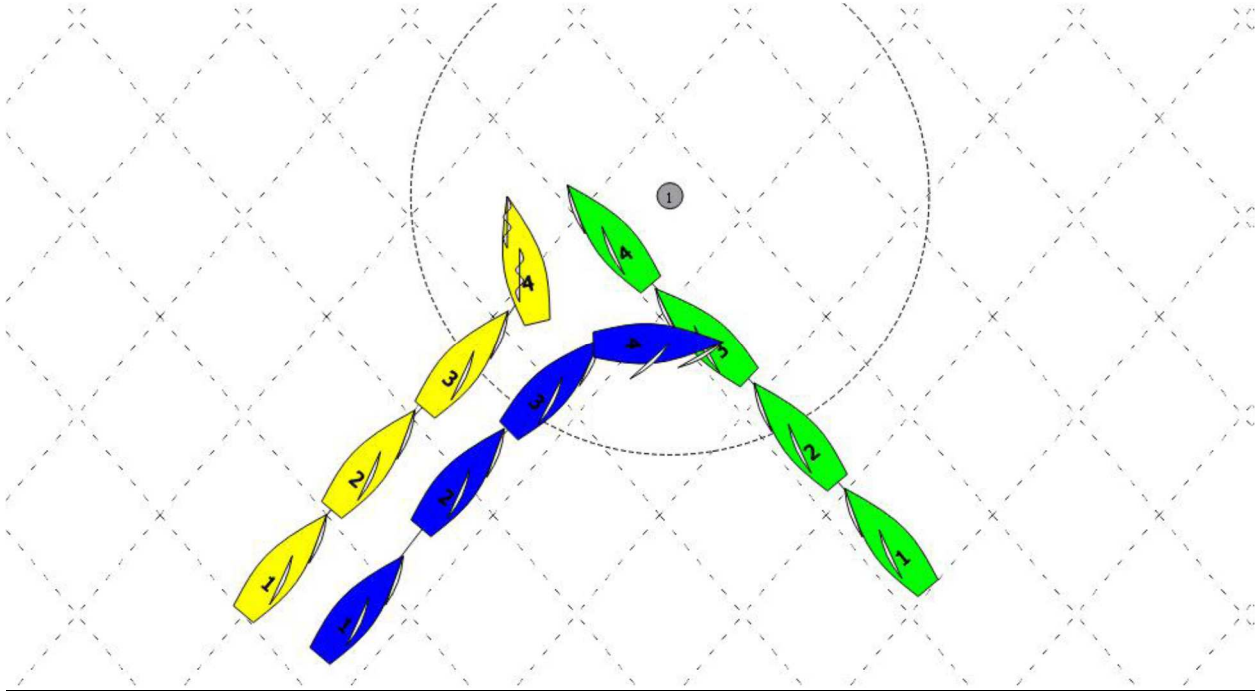
A がスタート・ラインのプレスタート・サイドに戻り、正しくスタートし、コースを帆走してフィニッシュした場合、プロテスト委員会はAの規則30.3または規則30.4違反を免罪とし、規則A3に従いAのフィニッシュ順位を決定し、それに応じて他の艇の得点を調整するのがよい。

また、規則62.1 (d) に基づきプロテスト委員会が、Aのフィニッシュ時間またはフィニッシュ位置がBの規則2違反により著しく悪くなったと事実を認定した場合には、フィニッシュ順位よりも良い点で救済を受ける資格がある。

World Sailing 競技規則 Q&A サービス

K 001 **Q&A 2017.006**

2017年11月21日公表



質問1

マッチレースイベントで、あるマッチの黄と青、そして別のマッチの緑が風上マークにオーバーラップしてアプローチしていた。マークはスターボード回りであった。

緑はスターボードタックのクロスホールドをまっすぐに帆走し、他の2艇の内側にオーバーラップしゾーンに入った。

黄と青はポートタックでオーバーラップしており、青が風下艇であった。黄と青は緑と衝突コースにあった。

青はタックするためのルームを求めて声をかけなかった。最後に青はベア・アウェイして緑のすぐ後方を通過した。黄は緑を避けているためにラフとタックをしてY旗を掲げた。

なんとコールするのがよいか？

回答1

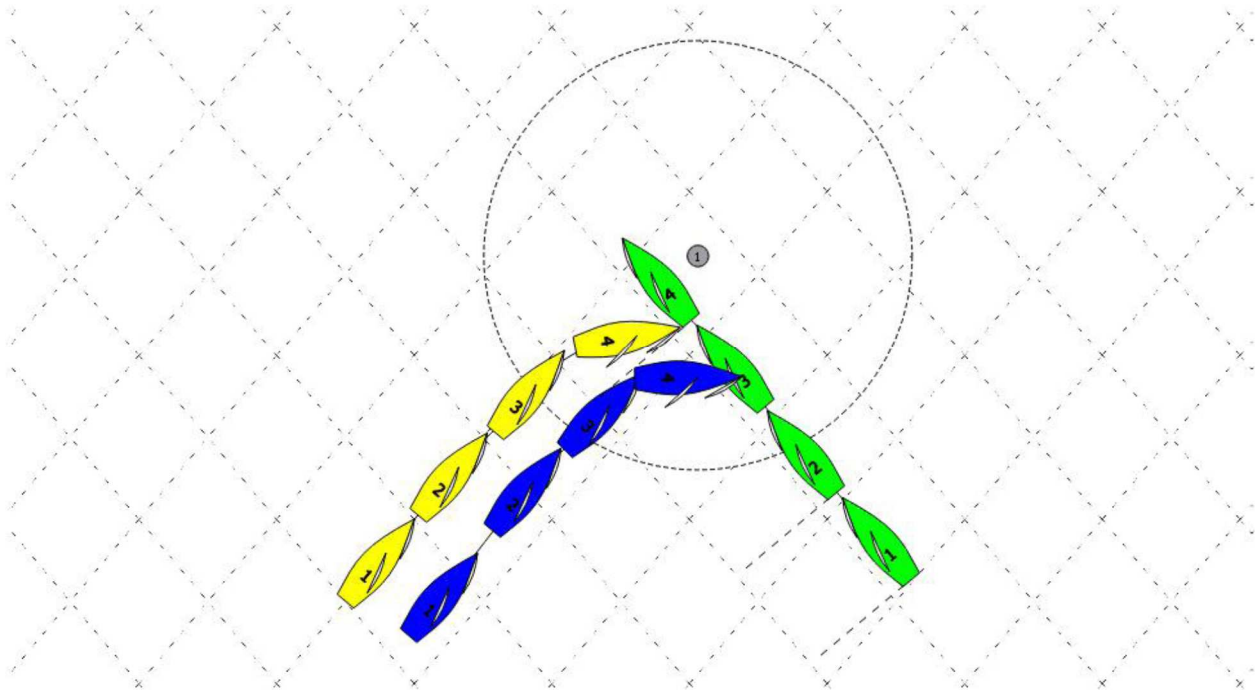
緑色と白色の旗を掲揚する。緑がゾーンに到達したとき、緑は内側にオーバーラップした艇であって、それゆえ、青と黄に対し規則18.2(a)(1)（規則C2.9）に基づいてマークを回航または通過するまでマークルームを得る資格が有る（規則C2.2）。

青が黄の内側にオーバーラップゾーンに到達したとき、規則18.2(a)(1)（規則C2.9）が適用され、黄は青にそれ以降マークルームを与えることが求められる（規則C2.2）。

航路権艇の緑は黄と青にとって障害物である。

全3艇はそれぞれの艇間に規則18が適用されオーバーラップしている。（定義オーバーラップの最後の文章と規則18.1（規則C2.9））。

規則19.1(b)の状況は満たされているので、規則19は適用されない。黄は緑と青の間を通過するルームを得る資格がない。



質問2

ラフィングとタッキングを除けば状況は質問1と同じで、黄が青とともに緑の後方を通過するためにベア・アウェイした。青は黄を避けなければならない、黄と緑は接触した。

青はY旗を掲揚した。

なんとコールするのがよいか？

回答2

黄にペナルティを課す。規則19は適用されない、そのため青は自艇と緑の間を通るルームを黄に与えることを求められない。黄は緑と青の両方を避けておらず、規則10と規則11に違反した。

黄はルームまたはマークルームも得る資格がなく、他艇が規則に違反した結果により規則違反を強いられたものでもない、よって規則64.1(a)（規則C8.1(b)）または規則21により免罪されない。

World Sailing 競技規則 Q&A サービス

A001 **Q&A2017.007**

2017年11月23日公表

状況

艇はクラス規則またはセーリング競技規則に違反したが、レース中や抗議の締切時刻またはリタイア届の締切時刻まで、規則に違反したことに気づいていない。これらの締切時刻のしばらく後に艇が規則に違反したことに気づく。

例えば次のとおり。

- a 風上オフセット・マークを回航している時、艇のスピネーカーがマークと接触したが、乗員は接触を見たり聞いたり感じたりしていない。その日のレース終了後に、すべての締切時刻が経過してしばらく後、彼らはマーク回航のビデオを見る。ビデオは衝突を明確に示している。
- b 艇は専門のボートビルダーによって修復されている。ビルダーは、修理を行う際に、艇がクラス規則に適合しない技術または材料を使用した。この欠陥は、オーナーまたは様々な大会で艇をチェックするメジャーには明らかではない。いくつかの大会が終了した後、オーナーは艇がいくつかの大会でクラス規則に適合していなかったことを知る。
- c 競技者はインシデント（水上または陸上において）を認識しているが、適用される規則の理解や解釈が正しくないため、規則に違反していないと思いこんでいる。その後、競技者は正しい解釈を認識し、いくつかの大会で規則に違反したことに気づく。インシデントが起こった時にはペナルティーは履行されず、有効な抗議も提出されていない。

質問 1

艇にリタイアの義務はあるのか、そうであればその方法は？

回答 1

ある。セーリング競技規則にはリタイアの締切時刻はない。基本原則 - スポーツマンシップと規則は、競技者が規則に違反した場合、速やかにペナルティーを履行することであり、それはリタイアの場合もあると述べている。艇がその違反に気付くと速やかに、帆走指示書に記載されているフィニッシュ後のリタイアに関する手続きを行わなければならない。

質問 2

レースや大会の後に艇がリタイアする場合は、レース/大会の結果を修正する必要があるか？

回答 2

ある。規則A6.1にあてはまる。

質問 3

大会のレベル（オリンピックまたは水曜日の夕方のビールレース）によって、答えは違うか？

回答 3

変わらない。

質問 4

もし違反により艇が有利になったか否か、または重大な規則違反したか否かにより答えは違うのか？

回答 4

変わらない

質問 5

艇が、その日のレースの締切時刻後に、大会やシリーズが終了する前に規則に違反したことに気がついた場合、答えは違うか？

回答 5

変わらない

質問 6

艇は規則に違反したことに気付くと速やかに、レース終了後または大会終了後にリタイアする義務を負うという回答である場合、そうしなかったら規則69の不正行為に抵触するか？

回答 6

規則 69 に基づくプロテスト委員会の処置は、競技者が不正行為をしたとプロテスト委員会が判断した場合にのみ行われる。